

川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会

令和2年度第2回 グループディスカッションの実施について

1 目的とねらい

川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会では、14名の委員による運営委員会を立ち上げ、地域包括ケアシステムの第2段階の展開に向けて、取組を推進しております。

この連絡協議会では、多様な参加者同士の意見交換を通じて地域での連携の可能性を模索し、参加者同士が「顔の見える関係」になり、川崎市の地域包括ケアシステムの担い手として、地域でご活躍いただくことをめざしています。

2 実施の考え方

本グループディスカッションの考え方は次の通りとします。



① 地域包括ケアシステムに対する「考え方」や「意見」を集約します

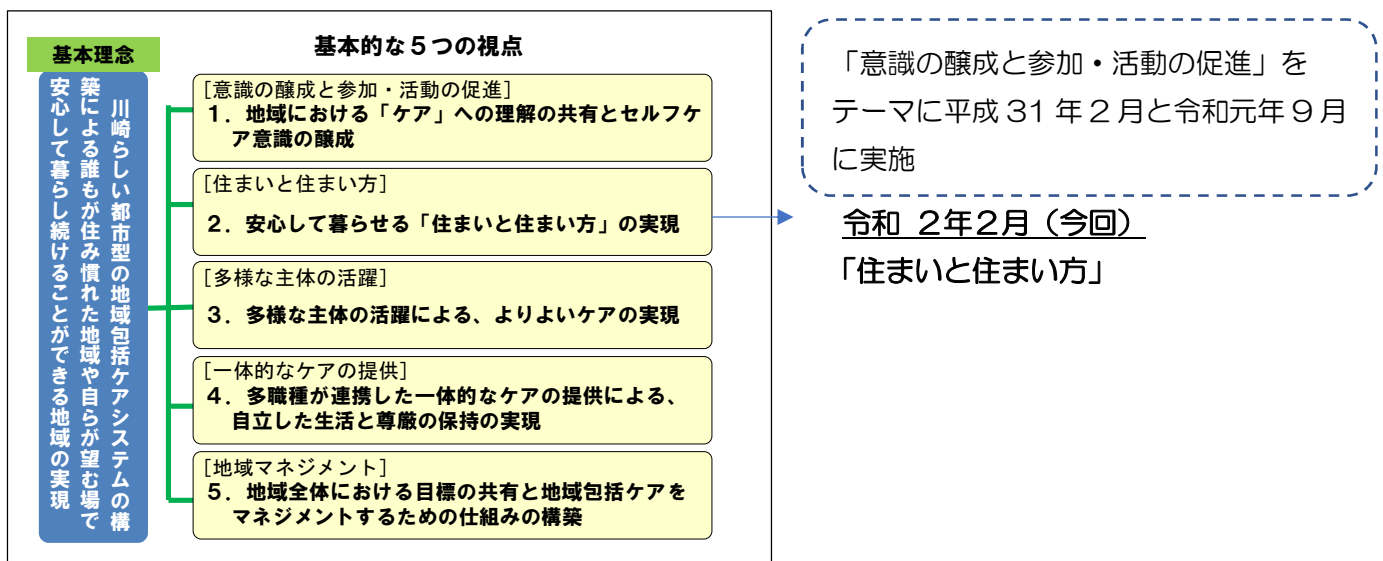
自らが地域包括ケアシステムの担い手と意識できるよう、地域包括ケアシステムの「考え方」や「意見」をカテゴリーごとにまとめます。

② 参加者による「全員参加型」で行います

事業者、企業、大学、住民団体、住民など、多様な参加者が互いに気後れせず、また対等に話し合いに参加できるよう、『自分の立場を考える時間をもつ』・『発言しやすい雰囲気をつくる』・『他人の発言をよく聴く』というルールで話し合いやすい雰囲気を醸成します。

3 連絡協議会のテーマについて

「地域包括ケアシステム推進ビジョン」の基本的な視点を参考として設定することとしたい。



4 実施方法

(1) テーマ

安心して暮らせる住まいと住まい方を実現するには

(話し合うテーマ)

「人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方とは」

※住まい方とは

「住まい方」とは、家族等や地域コミュニティとの、生活を送る中での関わり合いとそれを含めた多様な生活の仕方を示すものであり、「誰と関わり、どのように生活していくか」といった観点。

(2) 実施手法

グループディスカッションでの話し合いはKJ法によりまとめ、最後には2～3グループ、話し合いの結果を発表していただきます。

※KJ法とは

多くの意見・アイデアを分類し、論理的に整理して問題解決の道筋を明らかにしていくための手法。

(3) グループینگ

10名程度のグループに分けます。

各グループにはできるだけ、関係機関、専門職団体、企業、地域団体、大学、住民等が混合するように構成しています。できるだけ地域性に配慮してグループینگしています。

(4) ファシリテーター・記録

全体の進行役は行政が担い、各テーブルに、運営委員を配置し、ファシリテーターを担当していただきます。ファシリテーターの補佐役として、各区の行政職員も同席しています。また、委託先事業者スタッフを作業補助者として配置しています。

(5) タイムテーブル

別添のとおり

(6) まとめ方

出された意見は、グループごとにまとめ、後日、報告書としてまとめます。

グループディスカッション終了時にはアンケート用紙に、参加した感想や懇談会での話しかれなかった思いをご記入下さい。

※「情報交換シート」については、前回、他の参加者との情報共有に使用しました。今回は、前回の情報共有を通じて、改めて作成を依頼させていただきました。次回の連絡協議会（令和2年8月頃開催）では、皆様の御了解を得て、会員団体間で情報共有を図りたいと考えております。（情報共有に同意して下さった団体は今回の情報をリスト化して共有していきたいと考えています。）

＜タイムテーブル＞

	内 容
18:00～	市長挨拶
18:03～ 18:13 (10分)	川崎市における地域包括ケアシステムの取組状況 「川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組」 (説明者) 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室担当課長 鹿島 智
18:13～ 18:25 (12分)	川崎市内での活動報告 「地域と共に育む充実した暮らし -NRE 新川崎弥生テラスの取り組み-」 (発表者) NRE 新川崎弥生テラス 施設長 岡田 雷太氏
18:25～ 18:30 (5分)	グループディスカッション全体の流れの説明 全体の流れ、グループディスカッションのルールについて説明。 (説明者・進行役) 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室室長 宮脇 護
18:30～ 18:40 (10分)	自己紹介・アイスブレイク 自己紹介には、前回に引き続き、「情報交換シート」を活用。1人1分弱でお話しいただく。
18:40～ 18:50 (10分)	個人ワーク 「人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方とは」について、付箋紙に、1人3枚以上記載。 ※住まい方とは 「住まい方」とは、家族等や地域コミュニティとの、生活を送る中での関わり合いとそれを含めた多様な生活の仕方を示すもの。
18:50～ 19:15 (25分)	グループディスカッション（個人ワーク発表等） 一人ひとりが、付箋紙に記載の内容を説明しながら、それぞれ手前の模造紙に貼っていく。近い内容のものは近くに貼って、タイトルをつける。その後、グループごとのディスカッション。グループで1番大事だと思うタイトルを選ぶ。
19:15～ 19:25 (10分)	報告 1グループ120秒を目途に、大事だと思った内容のタイトルと理由について、時間に応じて、2～3グループに報告していただく。
19:25～ 19:30 (5分)	全体講評 埼玉県立大学理事長・慶應義塾大学名誉教授の田中滋先生から講評をいただく。
	閉会・今後の予定について（アンケートへの記入）

○ポストイットのイメージ

「人生100年時代を見据えた安心して暮らせる住まい、住まい方とは」
について1人3枚以上記載

〈どのような立場・視点で考えたのか意識して記載すること〉

- 自分事、私にとっての視点
- 事業者、ビジネスとしてどう関わるかの視点
- 地域の中で困っている人を地域でどう受け止めるかの視点

